

# 暗殺された赤松小三郎

～幕末に日本近代化のグランドデザインを描いた男

## 講演会「幕末の偉才 赤松小三郎」ご案内

上田高等学校関東同窓会 赤松小三郎研究会  
会長 丸山 瑛一

幕末、信州上田藩士赤松小三郎は、京都で開いた洋学塾で多くの英才を育てるとともに、わが国の近代化に向けてのグランドデザインを描きその実現に力を尽くしました。赤松は、1867年（慶応3年）37歳で志半ばにして暗殺されましたが、その先進的な政治思想と優れた洋学の教えは日本の近代化に大きく貢献しました。

当研究会では、今回、赤松小三郎を史実から精査し、埋もれていた赤松に脚光を当てた青山忠正佛敎大学教授をお迎えし、赤松小三郎がわが国の近代化に果たした大きな役割についてお話を伺います。幕末史に関心をお持ちの多くの皆様のご参加を心からお待ち申し上げております。

日時：平成27年8月18日（火）受付開始18：10 講演 18：40～20：40

会場：東京都文京区文京シビックホール 小ホール（文京シビックセンター2階）

（裏面案内ご参照）

参加費：1,000円（当日会場受付にて申し受けます）

対象：幕末の歴史にご興味ある方であればどなたでもご参加いただけます。

定員：300名（先着順 お早めにお申し込みください）

主催：上田高等学校関東同窓会 赤松小三郎研究会

演題：「幕末の偉才 赤松小三郎」

- ・赤松小三郎と日本の近代化
- ・「英国歩兵練法」の翻訳について

（青山教授ご自身所蔵の大変貴重な『英国歩兵練法』をお持ちいただく予定です）

講師：青山忠正（あおやま ただまさ）佛敎大学歴史学部教授



1950年生まれ。東北大学大学院文学研究科博士課程修了、博士（文学）。佛敎大学歴史学部教授、明治維新史学会会員。赤松小三郎の政体構想に着目。主要著書、「日本近世の歴史6 明治維新」（吉川弘文館、2012）「明治維新と国家形成」（吉川弘文館）、「明治維新の言語と史料」（清文堂）、「高杉晋作と奇兵隊」（吉川弘文館）など

お申し込み、お問い合わせ：赤松小三郎研究会事務局（事前のお申し込みをお願いいたします）

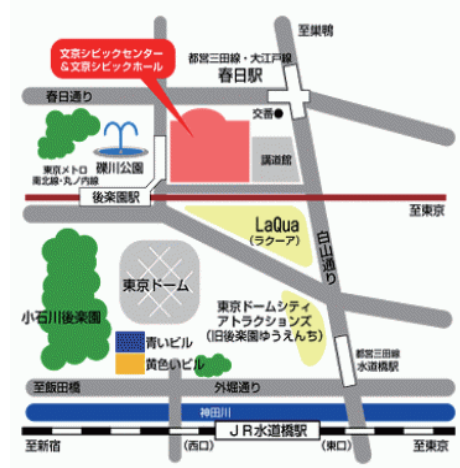
メール：kannazuki-6318@kxb.biglobe.ne.jp

電話：070-2685-2384（事務局 小山）

裏面をご覧ください

## 会場のご案内

東京メトロ（丸ノ内線、南北線）後楽園駅下車 5番出口直結、都営（三田線、大江戸線）春日駅下車 シビックセンター連絡口直結、JR中央・総武線水道橋駅下車徒歩10分）



## 赤松小三郎

天保2（1831）年～慶応3（1867）年

信州上田藩士。江戸に出て内田弥太郎、下曾根金三郎に師事し、数学、天文、測量、暦学、蘭学、砲術を習得。その後、勝海舟の侍として長崎海軍伝習所で英学、兵学、航海術を学ぶ。さらに横浜の英国士官アプリンから英語、英国兵法などを習う。幕末の京都に私塾を開き、洋式兵学を教えた。諸藩より学ぶ門下生の数、800余名。その中には東郷平八郎元帥、上村彦之丞大将など日清、日露戦争で活躍した諸将が何人かふくまれる。薩摩藩島津久光侯の委嘱により「重訂 英国歩兵練法」を翻訳した。将来の政体構想と国家のグランドデザインを描き、慶応3年5月、前政事総裁職・前福井藩主の松平春嶽侯と、島津久光侯とに建言した「建白七策」は、政治史のなかで輝いている。天幕一和、諸藩一和のもと上下二局の議政局により、内憂外患のこの時期を乗り切る方策を模索し、最後まで東奔西走したが、明治維新直前の慶応3年9月、京都において暗殺された。享年37。

上田市に赤松小三郎記念館がある。



赤松小三郎立像写真 上田市立博物館蔵



英国歩兵練法（青本）の一部 上田市立博物館蔵